



## ■ 住民の安全はそっちのけ 手抜き茶番訓練

8月25・26日に、大飯原発と高浜原発が「同時発災」したという想定で防災訓練が行われた（実際の想定は、放射能放出は大飯原発からだけ）。福井と関西の市民は訓練参加者と協力して、26日のUPZを含む住民避難訓練を中心に、福井・京都・滋賀・兵庫（避難先）の会場で訓練の様子を監視した。いくつかの会場の訓練の様子を紹介する。

住民の安全はそっちのけの手抜き訓練だった。国や自治体に抗議し、申入れ等を準備しよう。

### ■ 福井県若狭町 出発遅れ!! 30km圏内で待機

「これって、実際なら死につながる行動では？」（訓練参加者の一言）

8月26日の原子力防災訓練、若狭町民（計画205人）は若狭町勤労者体育館に集合し、多くは体育館内で、一部は移動バス内で安定ヨウ素剤の配布・服用訓練をした。そして、10:00出発の予定が、南条町勤労者体育センターのスクリーニング準備が間に合わず30分遅れ、参加町民は若狭町勤労者体育館で待機することとなった。参加した方の一人は、「スクリーニング会場での待機なら理解できるが、一時集合場所での待機は発想が全くおかしい」と憤慨されていた。

また、安定ヨウ素剤配布・服用については「安定ヨウ素剤の服用について」という説明書が配られ、係員から配布を希望しない人やアレルギーのある方は申し出るように言われ、安定ヨウ素剤に見立てた飴玉2個が配られた。説明書には、大きな字で「これから配布する安定ヨウ素剤を飲んでください」と書かれていた。

避難先の越前町生涯学習センターで参加者にアンケートを取ったところ、安定ヨウ素剤の配布については、「今の配布方法でよい」が20%、「屋内退避時に配布」が21%、「事前配布」が54%だった（回答者129名）。今回は県も参加住民アンケート（10問）を行った。

若狭町の避難訓練は、出発が遅れるという想定外の対応が杜撰で、緊張感がなく、マスコミの顔を見ることもない緩みっぱなしの訓練でした。案外、実際に一番近かった訓練だったかもしれない。（若狭町i）

### ■ 京都府南丹市 美山長谷運動広場 初のスクリーニング会場 除染は拭き取りだけ



ここは、おおい町名田庄地区住民のスクリーニング場所で、マイクロバス3台と自家用車5台で約60名が訓練に参加。会場の広場は簡素で、検査係はほとんど関電社員（約30名）だった。県と町の職員は10名程。誰もタイベックの着用なし。

除染は、関電社員が空のバケツとビニール袋がついたままのブラシで、タイヤの除染ごっこ。県職員に尋ねると、広場周辺住民との話し合いで、除染に水を使わないことになったという。

実際に事故で避難する場合も水は使わないそうだ。しかし拭き取りだけでは、名田庄住民の被ばく、広場の汚染、避難先兵庫にも汚染を拡大する。またこの場所は、バスの出入り口が同じで規制庁のマニュアルに違反している。また、重量制限9トンの橋を渡るためマイクロバスしか使えない。スクリーニング候補地から外すよう求めてきたが、問題が一層明らかになった。（大阪s）



8月26日、8:00大飯原発より放射性物質漏えいの為、UPZ住民へ一時避難指示という想定で訓練が行われた。訓練移動中のバスの中で、高浜原発からの漏えいはない旨が町の職員から話された。おおい町のUPZ圏内の本郷、佐分利、名田庄の各地区の住民（希望者）は、各々の一次集合場所に集まり、ヨウ素剤の配布、バスや自家用車でスクリーニング場へ、次に車両一時保管場所に立ち寄り、避難先の兵庫県小学校へと向かう。今回2回目の参加。

●私の住む佐分利地区は参加者60名弱、きのこの森（ふるさと交流センター）に8:30集合、本来きのこの森は、佐分利地区住民の一次集合場所なのだが、今回は、本郷地区住民も集合した。受付で、「安定ヨウ素剤の服用について」という1枚の注意事項等を書いた紙をもらい和室へと誘導され、本郷地区住民は講堂へと誘導された。

和室では、薬剤師1名、町の事務職2名が安定ヨウ素剤の担当。薬剤師が「基本、ヨウ素剤の配布を希望しない方と、ヨウ素剤へのアレルギーがある方以外は、配布します。ヨウ素剤へのアレルギーのある方いますか？」と挙手を促したので、アレルギーの有無の判断方法を質問するも、造影剤への過敏症とか、イソジンの例を早口に説明。挙手が無かった為「それでは配ります。取りに来て下さい」。一同、ヨウ素剤に見立てた飴玉1個とお茶を職員から渡され、バスへの乗車を促される。問診はおろか注意事項の説明すらなし、その間わずか3分程度。恐るべき手抜き！前回もひどかったが、まだ問診のまね事はあった。これでは福島同様、服用を渋る住民が出かねない。やはり事前配布での住民理解が必要だ。口頭での服用指示はなく、紙に「これから配布する安定ヨウ素剤を飲んでください」とあっただけ。これで指示したことになる。

●スクリーニング場のあやべ球場へは、前回同様綾部PAの臨時ゲートから入る。この最大の問題点は、出入り口が1か所狭く、除染前と除染後の車が、同じルートを通らざるを得ない事だが、今回も改善していない。人の検査や除染も屋外に設置されたテント内。出口付近で、通過証が全員に配られたが、車も人も、再汚染してしまう懸念があり、場所を含めた再検討が必要だ。

●避難先での駐車が困難な為設けられた車両一時保管場所、候補地の三木総合防災公園へ。途中新名神など新たな道が加わり、参加者からは「ナビを買い替えないと不安」との声。避難先の川西市立北小学校に向かったバス3台は、道を間違え、細い道をバックするというハプニングも。

避難先小学校では、通行証チェックの後、和室（本来は体育館）へ。避難所入所時健康チェックシートに記入。兵庫県職員の対応は丁寧。事故が起らず、ご負担かけない事を祈るばかり。

●帰宅後、18時台のNHKのローカルニュースで、当日の避難訓練の様子が放映された。本郷地区住民へのヨウ素剤の配布風景は、私の地区とは違っていた。翌日本郷地区の知人に確認した所、医師同席の下に保健士、薬剤師、県と町の職員等6・7名、アレルギーの有無の他、個人別問診が行われ、問題があれば医師が対応。PAZ住民への事前配布と同様の手順だ。名田庄地区、小浜市の参加者からも様子を聞いたが、唯一カメラが入った本郷地区住民への配布が、最もマニュアルに即した対応だった。

●今回、訓練全般において内閣府と県は誠に上手にマスコミを使い、もっともらしい訓練の様子を演出した。しかし、訓練の本来の目的であるはずの住民の理解はどれ程進んだのだろうか？私には、同時発災事故にもそつなく対応できるという、住民置き去りの虚飾のパフォーマンスにしか映らない。（おおい町m）

■ 滋賀県高島市 朽木西小学校&朽木中学校 一時移転の訓練参加はわずか14名

## 安定ヨウ素剤は説明のみで配布・服用指示なし/ 除染は拭き取りだけ

8月26日(日)に、高島市朽木西小学校と朽木中学校で行われた原子力総合防災訓練に滋賀県民8名で参加した。朽木西小学校学区は、福井県おおい町と京都府南丹市に接する山奥で、市街地へは平時でもすれ違うのがやっとの山道を車で40分以上掛かり、直前の台風でも通行止めが発生した地域だ。今回の訓練では地震により市街地への道が通行不能になったところに、高浜と大飯の両原発が電源喪失で緊急事態を経て放出された放射性物質が飛来し、空間放射線量が24時間継続して $20\mu\text{Sv/h}$ を超えて観測されたという想定で、ヘリによる住民の避難が計画された。

朽木西小学校では市長の挨拶の後、安定ヨウ素剤について、効用と副作用のほか乳幼児のためのゼリー剤のことなどかなり詳しい説明が行われた。しかし、実物の提示や配布はなく、いつものように配布されるのかの説明もなかった。

市長の挨拶は「原発は安全に運転されているので事故が起こることはまずない」という話で始まり、高島市の原発への姿勢を感じた。

住民48名が参加した説明会の後、予め希望して予約していた住民がヘリで朽木中学校へ移動し、スクリーニングや除染を体験することになっていたが、参加したのは14名だけだった。朽木西小学校から朽木中学校までは車で40分以上掛かるが、ヘリでは9分程。ただ、一度に搭乗できるのは6~7名と限られ、天候にも左右されるので、実際の避難時にどれだけ有効か甚だ疑問である。



中学校では住民のスクリーニング担当者は、簡易の防護服を着用していたが、「今日は暑いので」とマスク無し。訓練の住民は、まず放射線測定ゲート型モニタを通り、放射線が検出された場合も想定して個別にGMサーベイメータを使って再度測定。測定方法は滋賀県方式で頭頂部から靴の裏まで、一人3分程度で測定していたが、帽子を被ったままスクリーニングしている人もいた。担当者は、ここでは高レベルでの被ばくは考えておらず、放射性物質の付着が確認されれば、濡れティッシュで拭き取るか着替えをすれば大丈夫と話し、シャワー等での除染は用意もなかった。

車両のスクリーニングと除染は、中学校裏手の通りを一方通行にして行われていたので、その点ではこの場所はスクリーニングの条件に当てはまるようだが、ここから安曇川方面に避難する道は、今津や福井方面から避難してくる車両が通る道と交差するため、再汚染が考えられる。

スクリーニングと除染を担当していた関電の社員だけはフル装備の防護服で、車両の誘導をしていた高島市職員は普段の制服でマスクもなし。車両のスクリーニングは、ゲート型モニタを通った後、汚染があるとされた場合はGMを使って窓枠、ワイパー、タイヤ周りを3分程度かけて検査。タイヤが放射能汚染されているとして除染を行っていたが、ウエスを使って4本のうち1本のタイヤとホイールカバーを拭き取るだけだった。作業をしていた関電の職員に尋ねたところ、水を使って除染するスペースがなかったため拭き取りになったとのこと。実際の避難時にスクリーニングも除染ももっと手抜きになるのでは？と危機感を感じた。(滋賀 i)

